

下関リハビリテーション病院 季刊誌

オレンジ

地域に寄り添い、地域と共に

Shimonoseki Rehabilitation Hospital



国宝「瑠璃光寺五重塔」

基本理念 手には技術、頭には知識、患者様には愛を

CONTENTS

2・3P 装着型サイボーグ導入

4・5P 通所リハビリテーション

6P ベッド上のポジショニング研修

7P 自宅で出来る簡単体操

8P 医療連携室より

装着型サイボーグ HAL® を導入



HAL® 腰タイプ

HAL® (Hybrid Assistive Limb®)は、
身体機能を改善・補助・拡張・再生することができる、
世界初*の装着型サイボーグです。

※ 2009年に全国発明表彰 21世紀発明賞受賞。
「サイボーグ型ロボット技術の発明」、特許第 4178186 号

主な特徴 5つ

特徴 1
脳卒中や骨折、脊髄損傷、
パーキンソン病等幅広い
疾患の方に対応可能

特徴 2
操作が簡単で安全

特徴 3
立ち上がる、ゆっくりと座る
など日常生活に必要な動きを
アシスト(補佐)

特徴 4
腰の負担を低減しながら、
動作訓練が可能

特徴 5
適応身長140~180cmと
幅広い体格の方に対応可能



患者様の 声

50歳(女性)

腰 HAL を使ったの
リハビリはまだ始めた
ばかりですが、立ち上
がりの動作がすごく楽
に出来るようになりました。

60歳(男性)

自分で立ち上がるこ
とが出来ませんでしたが、
腰 HAL を使ってリハビ
リをしたことで、自力で
立ち上がり出来るよう
になって嬉しいです。

その他の訓練と合わせてご活用頂くこ
とで、更に歩行・バランス能力の向上に
繋がり、安全でスムーズな動作の獲得を
目指します。

また、そうした能力の獲得は患者様の
自信にも繋がり、ご自身が「次はこんな
ことを目指したい」と日々の目標を持っ
て生活して頂けるのではと考えています。



理学療法士
井場 智耶

これからも私たちは、こうした機器の導入や新しい
取り組みを通じて、患者様と「安心してその方らしい
生活を送って頂けること」を一緒に目指していきたい
と思います。

リハビリテーション科

装着型サイボーグ HAL® 腰タイプ (BB04) を
導入させていただきました!

こちらは、患者様の腰に
装着する形でご利用いた
だく機器となります。



医療技術部
部長 波多野 崇



通所リハビリテーションのご案内

このような方にご利用いただけます!

短時間で運動したい

外出の機会を増やしたい

身の回りの事を自分で出来るようになりたい



本年5月より通所リハビリテーションの責任者を拝命致しました、作業療法士 谷村将志と申します。当院の通所リハビリでは、充実したトレーニング機器の設置はもちろんですが、定期的にご本人やご家族様、医師やケアマネジャー、リハビリスタッフを含めた話し合いの場を設け、利用者様一人一人に合わせたリハビリテーションを提供するよう、心がけています。



作業療法室 副主任 谷村 将志

お問い合わせ先 ▶ いきいき健康館直通 TEL.083-242-1161 リハビリテーション科直通 TEL.083-228-6600

見学や体験も大歓迎です! 気になる方は、ぜひご連絡ください。

実施日時

午前の部: 10:00~11:59
午後の部: 14:00~15:59
実施日: 月~土曜日 (祝日も実施)

作業療法士 菅原 康一

ご利用回数はこのようになっています

ご心配な方はご相談ください

ご利用について
要支援1 週1回
要支援2 週1~2回
要介護 週1~2回程度 (回数相談)

受け入れ対象の目安
●車の乗降が可能
●自立して移動が可能
●ADL自立(トイレ含む)

作業療法士 斉藤 和美

マシントレーニング

上肢・下肢・体幹、各種マシン取り揃えております



理学療法士 窪下 太郎

重りを使った集団体操



全身を使った体操を実施しています

リハビリ助手 福井 恭子

送迎します! 病院から20分程度の範囲!



作業療法士 榎崎 亜美

脳トレ活動



楽しみながら脳の体操を行っています

現在、週1回で『脳トレ活動』を行っています。様々な難易度の問題から二重課題を意識した問題などを、**レクリエーション感覚**で実施しています。時に笑いながら、時に参加者同士で相談しながら、**和気あいあいとした雰囲気**で活動しています。

理学療法士 山下 洋介



いきいきファーム



実った野菜は利用者の皆さんと楽しく収穫しました!



人は「可愛いものや綺麗な物」を見ると、**幸せホルモン**が分泌されます。外出の機会が減った方々にとっては植物とのふれあいが、笑顔のきっかけにもなっています。夏にはトマトとキュウリ、ヒマワリを育てました。秋に向けてコスモスが控えています。

作業療法士 藤嶋 直子

パーキンソン体操



身体全体を大きく使った運動を取り入れています

大きな声と身体全体を使って体操することで、動作の緩慢さの改善や、動きを大きくする効果があると言われております。**楽しく運動することで、前向きな気持ちになることが目的です。**

どなたでも参加可能ですので、楽しく体操したい方は是非ご参加ください。

理学療法士 木村 美優



個別訓練

20分以内

目標に沿った運動を提供



担当スタッフが利用者様に合った個別訓練を提供しています

理学療法士 斉藤 卓巳

いきいきファーム



いきいき健康館の裏でお花やお野菜を育てています

作業療法士 藤嶋 直子

立ち上がり訓練



毎日120回、頑張っています

リハビリ助手 姫宮 雅代

個別訓練



「**ソロキャンプに行けるようになりたい**」と目標を立てた利用者様とホットサンド作りを行いました。左片麻痺を呈していますが、機能訓練・動作指導・環境設定を一緒に行っていくことで、「**また一歩目標に近づくことができた**。」とおっしゃっていました。

作業療法室 副主任 谷村 将志



美味しいホットサンドが完成!

ベッド上のポジショニング研修

定期的に開催しているケアワーカーの研修会で『ベッド上のポジショニング』を行いました。この研修は当院の医療技術部長であり理学療法士の波多野部長に講師をお願いし、年3回シリーズで行われている体験型の研修です。『車椅子のポジショニング』、『引っ張らない移乗』に続いての第3弾でした。

日々行っている介護を学びなおすことで、たくさんの気づきがありました。患者様がどのような気持ちでおられるか、実際

各自が患者様の役をし、体験しました。

ベッドに横になった時の枕の位置を少し変えても、違和感を感じたり、心地よくなったりしました。患者様にとって良かれと思って身体の下にクッションを入れていましたが、実際体験してみると窮屈だったりもしました。

人間の片腕の重みは体重の7%、頭部は8%です。それを錘で持ってみるとみんなビックリ。麻痺のある患者様は、この

重みを感じているんだと知りました。

一時間の研修でしたが驚くことが沢山で、あっという間に時間が経ってしまいました。学んだことを活かして患者様の気持ちに寄り添った介護をしていきたいと思いました。



介護福祉士 主任 貴田 睦子



知らない事ばかりで、とても勉強になりました。患者様が安楽に過ごせるよう、実施していきたいと思えます。



経験年数 1年目 ケアワーカー 正野 史子

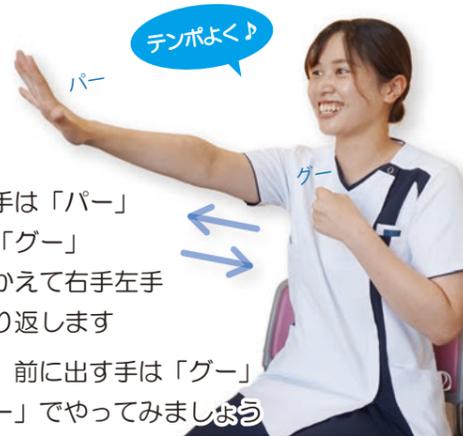
自宅で出来る簡単体操 いつでも出来る脳トレ活動

脳内トレーニング=脳トレは様々な方法で行えます。テキストやドリルを使う方法もその一つですが、今回は身体一つで簡単に出来る脳トレを紹介します！



生活期リハビリテーション科 理学療法室 主任 林 修平

グーパー体操



テンポよく♪
前に出す手は「パー」
胸の前は「グー」
手を入れかえて右手左手交互に繰り返します
慣れてきたら、前に出す手は「グー」
胸の前は「パー」でやってみましょう

「グー」「パー」に慣れたらパターンを変えてみましょう！



パターン「パー」「チョキ」
前に出す手を「チョキ」
胸の前は「グー」
逆にも挑戦！
前「チョキ」胸前「パー」



パターン「パー」「チョキ」
前に出す手を「パー」
胸の前は「チョキ」
逆にも挑戦！
前「チョキ」胸前「パー」

ゆびチェンジ体操

右手→親指、左手→小指
「せーの」で指をかえます
右手→小指、左手→親指
交互に「ゆびチェンジ」しましょう



慣れてきたら、親指を人差し指にかえてみましょう！



右手→小指、左手→人差し指
交互に「ゆびチェンジ」
右手→人差し指、左手→小指

トンスリスリ体操

「トントン」は腕を上下に動かし「グー」で膝をトントンと軽く叩きます



左右を変えてみましょう！



「トントン」していた方の手を「スリスリ」に「スリスリ」していた方の手を「トントン」に交代します

音楽に合わせてやってみるのもいいですね！

「スリスリ」は「パー」にした手の平で太ももを手前にスリスリと動かします

脳トレの体操がうまくできなくてもできなくても、脳血流の改善に繋がっています。うまくできなくても大丈夫！どんどんチャレンジして脳を活性化させましょう！



医療連携室より



医療ソーシャルワーカー
主任 上野 純子

当院は、急性期病院から入院でのリハビリが必要な方のご紹介をいただくことが多いです。



急性期病院

入院でのリハビリが必要な方

当院は回復期リハビリテーション病院です!



下関リハビリテーション病院

今回は、当院の入院相談について、かかりつけ医先生や介護支援専門員の方からご紹介いただいた症例とともにご説明いたします。



看護師主任 川口 良子

2021年度は、自宅などの住み慣れた地域からご入院いただいた方は40名いらっしゃいました。

また、回復期病棟対象疾患以外でも、一ヶ月限定で短期入院（一ヶ月で自宅に退院できる見込み）していただくことができます。 ※レスパイト・ケアは対象外です



室長 中板 留美

紹介 介護支援専門員 82歳女性

尻もちをついてから腰部痛出現し、ベッドから起き上がる際介助を要している状態であるため、集中してリハビリを行えないかと…



入院後、痛みの原因を精査し仙骨骨折を認めました。痛みが徐々に軽減し、独歩で身の回りのことが自身でできるようになりました。



医療ソーシャルワーカー
副主任 島崎 昇平

紹介 A 整形外科先生 90歳男性

パーキンソン病があり、ふらつき度々あり転倒されていた。自宅内で転倒し腰痛が出現。体動困難となったため、A整形外科受診し、第1腰椎圧迫骨折の診断。自宅療養の方針だったが、痛みが強くなり入院でのリハビリが必要とこのことで紹介いただいた。



紹介 B 整形外科先生 86歳女性

よろけてしゃがみこんだ際に左肘が入り込み受傷。左肋骨痛で動けなくなりB整形外科受診。変形性腰痛症術後、第2腰椎圧迫骨折加療中だが、歩行不安定性もあり専門のリハビリ目的にて紹介いただいた。



入院後、下肢痛は意欲的にリハビリを行い、歩行器使用し歩行できるようになり、杖歩行でご自宅へ帰られました。現在は当院訪問リハビリ利用し1人で外出もできるようになりました。



医療ソーシャルワーカー
竹田 佳代



医療ソーシャルワーカー
坪井 美桜

入院リハビリで、自信がついたことと、以前より使用されていた抑速歩行器の高さを変更し、歩きやすさが改善されて、短距離を独歩で歩行できるようになりました。

上記以外のことで何かお困りごとやご心配なことがございましたら、お気軽にMSWまでご相談下さい。

相談受付 TEL:083-232-5811 月曜日～土曜日(日曜・祝祭日その)
9:00～17:00 メールでのご相談:renkei@shimoreha.jp

表紙の写真 📷 コロナ収束祈願に山口市の瑠璃光寺へ。ライトアップされた五重塔をパシャリ!

一般社団法人 巨樹の会
下関リハビリテーション病院

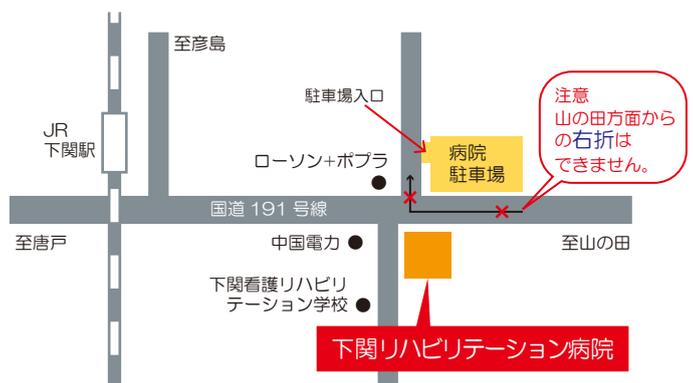
〒750-0064 山口県下関市今浦町9番6号
TEL:083-232-5811 FAX:083-232-0219
URL:https://www.shimoreha.jp
Mail:info@shimoreha.jp

アクセス方法

- JR 下関駅より徒歩5分
- サンデン交通竹崎バス停より徒歩1分



日本医療機能評価機構
認定第 JC2314号



注意
山の田方面からの右折はできません。

下関リハビリテーション病院